

衛生・防疫を徹底した 資源循環型農業

清潔な環境で育てるために、畜産農家では毎日畜舎を清掃して清潔に保ち、消毒を徹底することによって病気の発生を防ぐとともに、家畜にとって大敵であるストレスを与えないように努めています。

近年の高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫の発生を受け、防疫措置として、定期的に畜舎周辺へ消石灰を散布したり、野鳥などが外部から侵入しないよう畜舎の整備を行ったりしています。

また、毎年定期的に経営環境保全調査を受け、周辺環境に配慮した畜産経営に努めています。



伊予牛



愛媛甘とろ豚



媛っこ地鶏

これら家畜のふん尿は、乾燥や発酵させるなどして、稲や野菜などの肥料として利用しており、資源循環型農業に貢献しています。

安全・安心な畜産物を 消費者へ

BSE（牛海綿状脳症）の発生以来、食肉の安全・安心に対する消費者の関心は非常に高まっています。それに対応すべく、牛の出生から牛肉として消費者に供給されるまでの履歴を管理するトレーサビリティ法が施行されるなど、安全・安心な国産牛肉の供給システムが構築されてきています。

鶏卵は、検卵、選別などの工程を

経て厳しいチェックがされたものを出荷しています。また、より鮮度の高い卵を直接提供するため、宅配や自動販売機での直売をする農家もいます。

近年は、輸入畜産物の増加、原油価格の上昇に伴う飼料価格の高騰、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの対策など、畜産を取り巻く環境は大変厳しいものとなっています。

市内の農家戸数は減少傾向にありますが、現在、経営を維持している農家は後継者と力を合わせて、しっかりと現状に立ち向かい、対策を模索しています。

今回ご紹介したことは、ほんの一部ですが、畜産農家は消費者の皆さまに安全・安心な畜産物を提供できるように、日々努力して畜産物を生産しています。

これらの努力をご理解いただき、地産地消・食料自給率向上にご協力いただけますようお願いいたします。

地域畜産の活性化に努める 東部家畜推進協議会

安全で良質な畜産物の生産供給と生産性向上に資するため、愛媛県、西条市、新居浜市、四国中央市、畜産関係団体などでは「東部家畜推進協議会」を組織しています。

協議会では各種研修の開催や家畜衛生技術の普及啓発などに取り組み、地域畜産の活性化に努めています。

問合せ 東部家畜推進協議会（愛媛

県東予家畜保健衛生所内）

TEL 0897-5719122